

幕末新撰組奇譚

されど空の深さを知る。

やとみまたはち

登場人物

試衛館（女性が演じる）

近藤勇

土方歳三

沖田総司

山南敬介

永倉新八

斎藤一

水戸派（男性が演じる）

芹沢鴨

新見錦

平山五郎

平間重助

桂小五郎

おりょう（男性が演じる）

鞍馬天狗

弁士

舞台は京都、壬生寺の境内。舞台奥に土手があり、その向こうに京都の山々が見える。土手の前上手側に井戸がある。

プロローグ

着物を着て山高帽を被り、張り扇を持った弁士が舞台前の明かりの中に登場する。

弁士

幕末のお話。ペリーの黒船来航により200年余り続いた鎖国は終わり、徳川幕府は揺れに揺れておりました。長州や土佐の一部の過激派は、関ヶ原の怨念を晴らすまじとばかりに京都にて暴れ回り、政治に口を出さないはずの朝廷もなにやら動き出す。天皇を立てて幕府に取って代わろうとする尊皇派、幕府とともに進む佐幕派、外国人を打ち払えという攘夷派、当時ごく少数の変人と言われた開国派と様々な思想がぶつかり合うまさに乱世。ここに登場するのが、かの新撰組であります。江戸の小さな道場、試衛館からやってきた凄腕の浪人集団。それでは登場していただきましょう。天然理心流四代目宗家、劍豪、近藤勇！

近藤勇、出てきて刀を振りポーズを決め、土手に立つ。

以降のメンバーも同じように。

弁士

喧嘩殺法、強さ鬼のごとし、土方歳三！
劍の天才、瞬殺三段突き、沖田総司！
武のみならず頭脳明晰、山南敬介！
がむしやら新八あだ名はガムシン、永倉新八！
無敵の劍と言われた、斎藤一！

壬生浪士組より後に新撰組を名乗り、京の町そして日本中にその名を轟かせることになるこの男たちは。

試衛館

やあ！（刀を構える）

弁士

あれ？男？

試衛館一同、女の声になっていることに驚いて咳き込む。

弁士

いやいや何かの聞き間違い。男の中の男、最後の侍！いぎ！新撰組の物語はじまりはじまり！

音楽。

音に合わせて剣術訓練をする試衛館の一同。弁士が歌い出す。

弁士

♪青空に志を 唇に友の名を 死ぬ時まで肩を連ね
歩みは止めぬと
誓いを語ったときのくすぐったい嬉しさよ
我々ならきつと誰より 熱く生きられる
されどこんな日に目に映った空 これまでで一番悲しい
されどこんな日に見上げて空の下で君は僕よりも

山南 寒くて縮み上がつとるのかな？
近藤 今は初夏だぞ。
沖田 あ、落ちて袴の裾に引つかかかってないか？
試衛館 すわ！

試衛館、袴をまさぐる

試衛館 ない！
近藤 夢か？これは。
土方 声。おかしくないか？
沖田 あれ？あーあー。なにこれ。
近藤 なんだあ？
土方 顔もつるんとしておる。
斎藤 山南さん？
山南 なんだ。
斎藤 そんな感じだったつけ？
沖田 永倉さんも。
永倉 なんじゃ？
山南 あれ？

山南と永倉、意図せず可愛いポーズになってしまう。

沖田 なんかかわいい。
斎藤 まるで

沖田、斎藤 女……

近藤 よせ！俺たちは壬生浪士組だぞ。冷血非道の劍豪集団、人呼んで壬生の狼、
壬生狼（みぶろ）。

壬生狼が女だなんて。

近藤、土方 いかん！いかん！

土方 俺は生まれも育ちもこの乱世で洗い直すためにやってきた。かつての侍に憧れた百姓はもうおらん。武士、土方歳三が都にて始まろうとしておるのだ。

徹底的に探せ！

試衛館、体中を触って

（胸を触って）おい？なんだこれは。胸の筋肉がおかしい。としさん。

と土方に胸を触らせる。

ぶよんぶよんじゃないですか。

腕も。

ぽよんぽよんだ。

いやだー！

こんなんじや侍なんてやっとなれんぞ。

もし芹沢の連中に知られたら。

わあ！

それは身近な大問題だ。

山南 水戸の連中か。

試衛館

土方

沖田 壬生に集まった浪士衆もやっと我らと水戸の二組で均衡が取れてきたのに。もう。なんでこんなときにこんなことに。

近藤 思い出せ。昨日何があった？

沖田 大阪で相撲取りと喧嘩。

土方 そのあとだ。

斎藤 壬生に帰ってきて、気が収まらないって島原の花街に。

永倉 坂井屋つて小ぶりの料亭で酒を飲んだ。

山南 置屋の輪違屋からいい女が来てくれたな。

土方 おりよう。

沖田 そう！おりようさん！

山南 あの女は良かったな。小股の切れ上がった京美人つてやつだ。

土方 歌も舞も一流だ。

沖田 都の女に相手をされたのは初めてです

斎藤 美しかったな。おりよう。

山南 おつ斎藤、惚れたか？

斎藤 いや……

近藤 おりようのことはいい！で、坂井屋で厠に行ったか？

沖田 行った！

試衛館 行った！

近藤 あったか？

試衛館 あった！

近藤 ようし。ようし。推理は進む。そのあとだ。朝方まで飲んで、

土方 歩いてここ壬生まで帰ってきた。

近藤 そしたら……こんなことに？あれ？

永倉 うーむ。

沖田 ちよつと待って。坂井屋で最後に変わったお酒を飲まなかった？

山南 飲んだ！

斎藤 あの甘いやつか。

近藤 おりようが自分で持ってきたって酒だな。

山南 なんで遊女が自ら酒を持って？

土方 そういえばおかしい。

沖田 「れうまの酒どすえ」って。

土方 れうまつてなんだ。

沖田 あーんちよつとまつて、小便がもう。

山南 そう。パンパンだ。

土方 だなあ。

と土手に上がって奥を向いて並び、立ち小便をしようとする。

水戸派の平山五郎が入ってくる。

平山 これはこれは試衛館の諸君。今朝はやけに早いじゃねえか。

山南 (声を潜めて) 平山だ。

土方
厄介なやつだ。
なんとかごまかそう。

近藤
稽古場で立ち小便？田舎者は常識がない。近藤。おい。近藤。

平山
（声色を変えて）ああ平山さん。おはよう。

近藤
あれ？近藤か？

平山
そうだが。

近藤
声がおかしいな。風邪でもひいたか。

（咳払いをして）ああ、そうかもな。

試衛館一同わざとらしく咳き込む

平山
こんな時期に風邪とは間抜けな奴らめ。

山南
誰が間抜けだ！（振り返る）

平山
誰だお前？

山南
山南敬助だ。

平山
山南？うそつけ。

と山南に近づいて、女性の匂いにするのに気づく。

平山
何だこの匂いは。お前は？

永倉
永倉じゃ。

平山、山南と永倉の匂いを嗅いで

平山
なんか女くせえ！

と試衛館一同の顔を覗き込む。

平山
どうしたお前ら。お座敷遊びでふぎけたか？白粉が落ちておらんではない

か。へへ。なんだか今日のお前らには勝てそうな気がする。やい！稽古前に

手合わせ願おう。どいつにしようかな。よし土方！

土方
まだ準備ができておらん。

平山
準備ってなんだ。棒ぶん回すだけの江戸の田舎流派のくせに。

土方
なんだと？

と怒って振り返る。

平山
おお？なんだか本当に女みてえだ。土方。さあ来い！田舎仕込みの武士道を

叩きのめしてやる。

土方
ぶっ殺す。（木刀を持つ）

平山
きえー！

土方と平山、木刀を持って向かい合うが、平山は土方に怯えて逃げて

ばかりいる。新見錦が入ってくる。

新見
こちら！何しておる！

平山
おい新見。こいつら今日なら倒せるかもしれんぞ。

土方が平山に打ち込む。新見が土方の木刀を受けて

新見
やめてやめて！いま隊をまとめるための御法度書を作っている最中じゃない

か。なあ山南くん。

山南
あ、うむ。

私闘を禁じるという文言を書き加えたところ。都の警備のためまともなきやならんときにいがみ合つてどうする。近藤さん。あんたは芹沢さんと並んで局長なんだぞ。

やめい！土方くん。

ふん……

あれ？声をどうした？

(大声で) 風邪だ！

あ、そう。

鉄扇を担ぐように持った芹沢鴨と桂小五郎が出てくる。桂は緊張して
いる。

いや、もう私は。

ぜひ見ていつてほしい。

来た！

試衛館一同、顔を隠すようにして奥を向く。

桂 宿まで世話になり、これ以上は。お仲間もお揃いのよう。もう帰るので。

新見 芹沢さんおはようございます。

平山 おはようございます。

芹沢 おう新見、平山。

平山 そちらは？

芹沢 ゆうべ早く寝ちまおうとも思ってたんだが、どうも気が立ってな。

新見 昼にあんなことがありましたからね。

芹沢 島原の角屋(すみや)に行ったんだが、

平山 飲みに行ったんですか？俺らを連れて行ってください。

芹沢 すまんな。

新見 芹沢さんは酒が入るとほら。

芹沢 うん？

平山 たまにお暴れになられるので。

芹沢 昨日はいい酒だったぞ。(近藤たちに) おう諸君。

近藤 ああ……

芹沢 うん？

近藤 ちよつと厠に。みんな行くぞ。

試衛館 おう。

試衛館一同、こそこそとはける。

芹沢 なんか声が……

平山 そうなんですよ芹沢さん。あいつら、

それよりもだ。この御仁。昨夜、角屋でたまたま臨席したんだが、いやに意気投合してな。たらふく飲んで、たんと語り、家にも泊まってもらったんだ。

桂 楽しかったなあ。ではここで。

芹沢 (桂と肩を組んで) あんたとは話が合う。

桂 ええ、まあ水戸には少しいたことがあるんでね。
平山 そうですか。

桂 しかしあなたがあの悪名高き、
芹沢 うん？

桂 いえ、売出し中の芹沢鴨さんとは今朝起きるまで知ることもなく。それにこ
芹沢 こは壬生ですね。

桂 そうとも。我ら壬生浪士組が稽古で使っておる壬生寺だ。
桂 やはり帰ります。

芹沢 帰すわけにはいかん。あんたにはうちの朝稽古を見ていつてほしい。
桂 いやもう……

平山 名前を伺おう。
桂 かつら

芹沢、新見 平山 うん？
桂 ……やま、桂山源五郎と申す。明石の浪人で。

芹沢 桂山殿か。
新見 一瞬緊張しました。

桂 え？
平山 長州の桂小五郎を思い出してな。
桂 まさか。

新見 都で暴れる長州過激派の筆頭、桂小五郎がこんなところにいるわけがないだ
ろう。

桂 (ボソツと) 桂は過激派ではないと思いますが。
平山 先月、長州は外国の船を砲撃したんだってな。

新見 全部飛び越えて単独で攘夷しちまった。
桂 困ったもんですね。

芹沢 それで都では長州の人氣が急上昇中だが、外国は黙つとらんだらう。
桂 外国と戦争になるみたいです。

芹沢 じゃあ長州も終わりだな。
桂 幕府や朝廷は助けてくれませんよね？

芹沢 薩摩とイギリスも喧嘩してるし、外様の揉め事には関わらんだらう。
桂 ですよ。だから逃げてきたんです。

芹沢 え？あんた桂？
桂 と、とんでもない！

平山 本物の桂だったら命はない。
芹沢 まずは皮を剥いで拷問だな。

新見 そして家畜小屋で首切りですね。
桂 ほー。

芹沢 しかし都は全国の情報容易に手に入る所が良いな。
桂 ですね……

上手から近藤たちが暗い顔をして出てくる。

芹沢 (近藤たちに) どうした? 元気がないな。
構わんでください……

近藤 二日酔いか?

芹沢 ああ、酒を飲みすぎておかしく……そう! 昨日あんなことがあれば、酒量も
近藤 増えるつてものです。

芹沢 うん?

近藤 (桂に) 聞いてくれぬか。昨日何があったか。

桂 女?

土方 なんだあ?

桂 いや。

近藤 聞いてくれぬか。

桂 ……なにがあった?

近藤 大坂の力士30人と大喧嘩。

桂 ええ!?

芹沢 日中酔った力士が無礼を働いて来たので切り捨てたら、しばらくしてでかい
桂 のが30人、六角棒や丸太を持って仕返しに来やがった。

桂 絶体絶命!

近藤 こっちの人数はおおよそこんなもんだ。

桂 絶体絶命!

沖田 すごい巨人がでかい棒を振り回しておっかなかったな。

桂 で、どうなった?

試衛館と水戸派、刀を抜いて構える。力士との喧嘩を再現するアク

ション

土方 体中真っ赤にして怒りながら我らを取り囲む興奮した力士たち。

平山 こうなったらやるしかねえな。

沖田 まるで肉の壁だ。

芹沢 さあ! 喧嘩の始まりだ!

斎藤 あいつらとにかく一発当てようと渾身の力で混紡を叩きつけてくる。

山南 一発でも食らったらおしまいだ。

土方 四方八方からブンブン飛んでくる棍棒を避けて斬る。

永倉 かくくぐつては斬る。

新見 掴まれてもかなわないのでとにかく動きを止めてはいけない。

平山 浅い切込みでは脂肪に包まれた力士を倒すことはできん。

土方 踏み込んで深く斬る。

斎藤 野次馬をかき分けて回り込んで。

山南 斬る。斬る。

沖田 5人に囲まれてね。3人めに頭を叩かれた(転がる)

新見 そのとき流れた腕を斬り、

沖田 助かった新見さん。

平山 と、俺は胸を叩かれた。

平山吹っ飛んで転がる

ふつとんだなあ。

負けるな押せ！

どっせい！

全員同時に刀を突き出す。

結果、相手は俺たちを恐れ逃げていった。

力士3人が死んで、15人くらいはもう相撲をとれんだろう。

強ええ。

なんであんなことを。

思い出しても興奮する。新見。酒持ってこい。

だめです。

我らはまもなく新撰組の名を賜り会津の京都守護職の元で働き始めるというのに。

そうだな。

先日は商人に押し借りもした。

その金で揃えた隊服が今日上がってくるぞ。

素行が悪すぎる。

金を返すあてはある。

そういうことじゃない。

金は困ってなくても借りるんだ。なあ新見。

ええ。それをきちんと返すことで、山南君。

信用を得てゆく。

うむ。うん？

と、山南の顔をしげしげと見て、近藤や土方たちの顔も見る。

ほう。

昨日も機会を狙っていたんだ。

どういうことだ。

我らが京に来てまだ三月余り。同じような働きをする浪士団はすでにいくつもある。普通にしておっては隊士も金も集まらない。

うちには腕の立つ剣士が揃っている。

ただ揃えておるだけでは誰も気づかん。

働きの中で示してゆけば。

いまは世の中の速度が狂っておる。悠長にはしておれんぞ。

だからあんなことを？

大坂の力士たちが調子に乗って町人や浪人に乱暴狼藉を働いておると聞いてな。大坂に行つていい具合にそんな不良力士と出くわさないかと思つていたらまんまと。

だから我らを手連れ舟遊びなど。

ひとつ間違えば我らも命を落としかねなかった。

山南
芹沢
浪士組

土方
芹沢

桂

近藤

芹沢

新見

近藤

芹沢

近藤

芹沢

近藤

芹沢

新見

山南

新見

山南

桂

芹沢

土方

芹沢

近藤

芹沢

山南

芹沢

土方

芹沢

土方

近藤

芹沢 　　やい！侍諸君！命はかけるものだろう。
土方 ……ああ。

芹沢 　　誰もかなわないと諦めていた大男たちを数人で圧倒したんだ。こうやって初めて世間は我ら剣豪集団に気づく。

桂 　　そういうことか。

　　肩身の狭い思いをさせられていた浪人共は溜飲を下げ、あの剣士たちは誰だとなる。そしてまもなく新撰組の名が天子よりもたらされ、すぐに隊士募集だ。

土方 　　計算ずくだったのか。

　　腕に覚えのある浪人共がこの壬生にわんさとやってくるぞ。

平山 　　大将。すげえな。

山南 　　大坂奉行が黙っておらんでしょう？

芹沢 　　我ら浪人頼りで町の警護を間に合わせておる奉行所が強く出られるかな？

近藤 　　いい評判は立たんでしような。

芹沢 　　過激浪士を取り締まるわしらには悪評こそいい評判だ。

近藤 うーむ……

　　近藤くんは政治にも一家言（いつかげん）あるみたいが、この荒れた都でわしら浪人がのし上がるにはまず剣だ。長州や土佐の過激派に恐れられるようになって初めて世に向かって口を開ける。幕府の腰抜けめ！

試衛館 うん？

芹沢 　　長州の泥棒め！

桂 　　うん？

　　人々に声が届く高みより叫んで初めてそれは意味を持ち世を動かす思想となる。

　　そうかもな。

土方 　　近藤くんの上下関わらず人をまとめる力、懐刀の土方に、参謀の山南。試衛館は逸材揃いだ。

平山 　　我ら水戸は？

芹沢 　　優れておるのは当然。

平山 　　おう！

　　売出しはわしに任せてくれ。

芹沢 　　芹沢鴨。なかなかの男だ。

桂 　　おっ。つれなかつた男がようやく興味を示したか。

桂 　　そんなことは……

山南 　　どなたです？

　　桂山源五郎くん。我らの稽古を見学してもらおうと思つてな。桂山くん悪いな。調子に乗つて弁説してしまった。（近藤を指して）ああ。近藤くんだ。

近藤 （桂に）近藤勇だ。

桂 　　嘘！（急に顎をしゃくって顔を変える）
近藤 うん？

桂 iya。
土方歳三。
沖田総司。
山南敬助。
永倉新八。
斎藤一。
桂 試衛館！
土方 なんだ？
桂 は、はじめまして。桂山源五郎です。
沖田 どこかで会った？
桂 私は初めてお会いしましたが。
新見 ずっと言いたくて仕方がなかった新見、ついに耐えかねて
近藤 どうした。
新見 近藤、土方にあんたら、女になってない？
試衛館 はっ！

と、顔を伏せたり体を隠したりする。
え？
なんでみんな平気に喋ってるんだ？俺だけおかしいのかな。
そうそう！やっぱおかしいぞおまえたち。
おい！どうした！
今さら！
そうだよ試衛館の連中はこんなんじゃないやなかった。
やっぱり会ったことが？
いいえ！（しゃくれる）
声に、顔の感じに、なんか体つきも。
山南は女臭い！
なんだと？
もう一回嗅がせてみやがれ！
ええい許さん！
と刀を抜く。
抜いた！
一同、次々と刀を抜き、向かい合う。

お前らなんだ。なにがあつた。
別に。昨夜、飲んだ酒でおかしくなっているだけだ。
酒で女になるか？
女ではない！
みんなやめなよ！
沖田くん。
なんです？

芹沢 沖田くん。
沖田 やりますか？
芹沢 なんかい。
沖田 え？

芹沢 おれは常々、沖田くんが女だといいなと思っていたのだが。
近藤 芹沢！
平山 だつたら俺は山南だ。
山南 くら！

新見 え？じゃ俺は……
土方 気色の悪いこと言い合うな！
新見 だね。

近藤 昨日変な酒を飲まされてな。
新見 変な酒とは。
沖田 れうまの酒。
桂 れうま？

芹沢 なんだそれは。
桂 それ土佐ものに飲まされたんじゃないか？
永倉 ちがう。おりようさんじゃ。

桂 坂本の女の？
斎藤 坂本って、
沖田 すきあり！

芹沢 と芹沢に斬りかかる。芹沢、それを受けて。
初めて手を合わせるが、噂通り沖田くんの剣は鋭い。
桂 一同、乱れた打ち合いになる。
意味のない争いはやめろって！

芹沢 芹沢、桂に刀を渡して
桂 君もやってみろ。
嘘！

沖田 沖田、桂に打ち込む。軽々とそれをさばく桂。
桂 あれ？
桂 だからやめようって。なんで俺が。ほら刀を収めて。馬鹿らしい。

沖田 沖田
桂 桂小五郎？
試衛館、水戸派 え？

桂 あ！（慌てて顎をしゃくる）
沖田 練兵館でしょその剣。前に江戸のうちの道場に助っ人に来てくれたことがあつたよね。

近藤、土方 ああ！
芹沢 桂小五郎だと？
新見 長州の？
永倉 本物じゃと？

山南
近藤
すごい有名人！
捕らえろ！

一同、桂を散り囲み、捕まえようとするが、桂はひよいひよいとそれをかわし

桂
楽しかった。壬生浪士……いや新撰組か。只の浪士衆とはひと味もふた味も違うね。志が合えばぜひ味方になつてもらいたい。

土方
長州の過激派がよくのこのこと！

桂
来ちやつたんだよ。間違えて。ちなみに俺は過激派じゃない。高杉や久坂が手に負えんくなつてな。

土方
逃さん！

桂、刀で追い回す一同からひよいひよいと逃げて

桂
人呼んで逃げの小五郎。そう簡単には捕まらぬ。あ、坂本の薬さ。

土方
だから誰だ。

桂
龍馬だよ。

試衛館、水戸派
坂本龍馬？

桂
れうまつてのは、都の発音では「りうま」となる。おそらく坂本のやつ、鳴り物入りで都にやつて来たお前らに毒を盛つた。

近藤
毒だと？

平山
毒のせい？

桂
あいつが付き合っている怪しい外国人から手に入れたんだろう。早く毒消しを飲まねえとまずいかもよ。じゃあな！

と軽々とはける。

近藤
毒消し？

土方
坂本龍馬か。

芹沢
あいつ。桂だったのか。

平山
なんで桂がこんなところに。

近藤
長州者を本拠地に入れるなんて。

新見
昨日家に泊めたんですよね。

斎藤
その気があれば寝首をかかれましたよ。

沖田
一緒に寝たの？

芹沢
寝ておらんわ。沖田くんとならやぶさかじゃないぞ。

沖田
だから！衆道の趣味はありません！

平間重助が桂を肩に抱えて出てくる。平間は大きな風呂敷も抱えている。

平間
怪しいやつを捉えました！

桂
ひえー！

芹沢
平間よくやった！

近藤
縄でくくつてくれ。

山南
こい！

沖田と永倉、桂に縄をかける。

拷問される？

当然じゃ！

ひえー。皮を剥かれるの？

反幕府の長州者。幕府の警護者としてはただでは返せんかなにか探りに来たのか？

芹沢さんと飲んだだけです。

(風呂敷を開きながら) そいつ長州者でしたか。

(平間に) それは隊服か？

はい。仕立てが上がつてきましたよ。

隊服は本当にこれに？

土方くんはあまり気に入ってないみたいだな。

色がどうも。流行りじゃない。

流行りを気にするのは田舎者の証だ。

おい！

平間、試衛館と水戸派に隊服を配る

この大きな柄もなあ。

いいだろう？ 赤穂浪士を真似てんだら柄にしたんだ。

忠臣蔵の衣装だな？。

忠臣蔵？

歌舞伎座でやってる。

でも色が違う。

赤穂浪士が腹を切る時に着た浅葱色の布を使った。

死を覚悟してお上のために働くって意味だ。ね芹沢さん。

新撰組はこの都を舞台に大歌舞伎を打ってやるんだよ。なるほど。

そこまで考えたのか。

芹沢鴨は名演出家だねく

しゃべるな！

一同、隊服に袖を通す

(着てみて) どうかな。

おお。いい感じじゃ。

永倉も似合ってるぞ。

うん。君らしいんじゃないかな。特に山南くん。

匂いがかぐな！

沖田くんは派手な色が似合う。

本当？ 僕好きだなこれ。

そういえばお客さんですよ。

客？

おりょうとかいう。

桂

永倉

桂

新見

平山

桂

平間

芹沢

平間

土方

芹沢

土方

平山

土方

近藤

芹沢

桂

近藤

桂

山南

新見

平山

芹沢

近藤

土方

芹沢

永倉

山南

永倉

山南

平山

山南

芹沢

沖田

平間

近藤

平間

試衛館組

おりようさん？

さつき言つてた女か。

毒消しを持つてきたのかな。

そうだといいが。

すごい美人だぞ。

(平間に) そうなのか？

いや顔は隠してたので。

輪違屋の太夫じゃ。

あれこそ京美人だな。

ほう。それは。

そろそろ見回りにもいかねばならんが、

芹沢さん。

一応見ておくか。

はい！

派手な着物を着たおりようが奥の土手を顔を隠しながら走って現れそのままはける。

あつ！

試衛館と水戸派、桂も縛られたまます手に寄る。

おりようさん。

なんで走り去つたんだ？

あれか？

あの着物、間違いない。

おりようさん！

恥ずかしがつてるのかな？

きつと奥ゆかしいのだな。

大和撫子か。

いいぞ。

おりようさん。出てきて。

おりようさん。

おりよう、出てきてまた走ってはける。

帰つたのか？

芹沢さんを怖がつているんだ。

ああ。

なんぞだ。

あんたももつと優しい感じにしろ。

わかつた。

おりようさん。

もつと猫を撫でるような声で言わんか。

平山、平間 おりようさん。

芹沢、新見

おりよう、出てきてまた走ってはける。

一同

山南

芹沢

新見

沖田

永倉

土方

平山

芹沢

新見

山南

一同

桂

近藤

一同

芹沢

土方

平山

平間

永倉

芹沢

芹沢 あれは何をしておるんだ。
桂 折よく止められたいのかもな。

一同 おりよう、出てきて
おりよう！

一同 おりよう、止まりそうになるが顔を隠してはける。
あー。

土方 おりようが現れる。
俺に任せろ。おりよう！

おりよう中央で止まり、背中を見せたままくねくねと動いている。

一同 おお！
桂 止まった。

どうしたんだおりようさん。俺達が怖いのか？

土方 恥ずかしい？
おりよう首を振る

おりよううなづく。

かわいいー。

一同 (男の声) ゆうべはく
あれ？

ありがとうござりんしたく。

芹沢 渋めの声をしている。
素敵な殿方ばかりで恥ずかしおすえく。

平山 声は酒で焼けたか。
こちらを向いてもらえんか。

新見 京一の美人を拝みたい。
京一の美人？いやくん。

近藤 そういわんと。
わかりました。

山南 おつ。振り返るぞ。
やっぱり恥ずかしおすえく

一同 おい！
と走ってはける。

おりよう、顔を見せて満面の笑顔で走って出てくる。太い眉、大きな
ほくろ、口の周りが青い。

おりよう いやくん！

(おりようの顔に衝撃を受けて) おほーい！

おりよう いやくん！
近藤くん？

近藤 ああ。

芹沢 あれはなんだね。

土方 あんななんだつけ。

桂 水商売の女と朝に会ってはいかんという。
土方 化けの皮が剥がれるか。
新見 剥がれすぎだろ。
山南 いや、化粧つ気がとれて妙に見えるだけかもしれん。もう一度見てみんか。
一同 ああ。
と、おりようを見る。
おりよう いやくん。
芹沢 近藤くん！
近藤 あ、ああ。
平山 あの口の周りの青いのはなんだ。
近藤 口の周り青いな。
一同 青い。
土方 粗相をして殴られたのでは？
沖田 だったら歯はないね。
と、おりようを見る。歯をむき出して笑っているおりよう。
おりよう うほく
平山 歯をむき出している。
永倉 カビか？
新見 口の周りにカビが生えてるのか。
一同 そうか。カビか。
おりよう やくん。
芹沢 ……新見、平山、平間。見回りだ。
新見、平山、平間 おう！
試衛館 おい！
山南 逃げるのか？
芹沢 逃げるものなにも、君たちに用があるご婦人だ。俺達には関係ない。行くぞ。
新見、平山、平間 どっせい！
と、はけてゆく。
土方 くそ。芹沢。
おりよう 昨日はお運びいただき嬉しかったであります。
土方 ありますがムカつく。
おりよう また会えてうれしんどすえく。
土方 どすえのドスがきいてる。
近藤 おりようさん。
おりよう なんだすえく
近藤 あんた、俺たちに毒を飲ませたな。
おりよう 毒ってなんどすえ？？
近藤 あの妙な酒だ。
桂 あんた坂本の女だろ？

おりよう はっ！
桂 ほら。
おりよう なぜ知つとるんどす？
桂 俺は情報通でね。
永倉 坂本龍馬の女じゃと？
山南 やい！坂本に命令されて毒を盛ったのか。
おりよう 毒なんて。ただ美味しいお酒を壬生浪士の皆さんに飲ませてやれって。
山南 坂本龍馬が？
おりよう そうどす。
土方 ちよつと待て。おりようさんも一緒にあの酒を飲んだよな。
おりよう おいしかったでありんすねえ。
試衛館 ああ！
沖田 だからこんなことに。
おりよう なあに？
沖田 あんた、自分の顔がどうなってるか知ってる？
おりよう みなさん美しいと言ってくれます。でも……
試衛館 でも？
おりよう それほどでもないどすええおほほほ……
土方 気の毒だ。
桂 龍馬さんは世界一のべっぴんだって。
近藤 坂本も気の毒だ。
口の周りを触ってみてくれないか。
おりよう 口の周りをさわる。
：たわし？
桂 おりようさん。その、股には
試衛館 うんうん。
おりよう もくなんどす？ス・ケ・ベ
土方 おんどれー！
おりよう、後ろを向いて股間をたしかめる。
：なにかありおす。
やっぱり！
なんどすこれ。おいも？
齋藤 そういうことか、あの毒はひっくり返ってしまうんだ。
山南 男は女に。
永倉 美人はブスに。
近藤 コラ！
土方 女は男に。
桂 さらにブスに。
恐怖しい毒だ。
土方 解毒剤。おりようさん持ってきてくれたんだろう？早くくれ。

おりよう
試衛館
え？
え？

土方
おりよう
こんなことになった毒を消す薬だよ。
そんなのありまへん。忘れ物をお届けに。はい山南さんの下帯。

と懐から赤いふんどしを出す

山南
やめいっ！（ふんどしを奪い取る）

沖田
毒消しがないって。どうするの？

桂
坂本は持っているだろう。

永倉
どこにいるのじゃ！

おりよう
わからしまへん。

桂
女にも居場所は明かさなか。

おりよう
会いたいなって思うと不思議とやってきてくれるんどす。素敵。

土方
思え！いますぐ！

おりよう
でも今は殿方がいっぱいだからあ……

近藤
思え！さあ！

おりよう
ひー！

齋藤
念じろ！

おりよう
あ〜ん。龍馬さ〜ん。お会いしたいどす〜会いしたいどすえ〜

土手に黒い服面を被った鞍馬天狗が現れる

沖田
本当に来た！

近藤
坂本龍馬か！

山南
やい！龍馬！

鞍馬天狗、いきなり試衛館に斬りかかる。それを避けて刀を抜く試衛館。

山南
何をする！

土方
おのれ坂本龍馬！

鞍馬天狗と試衛館の戦い。鞍馬天狗は刀を二本使い一同を翻弄してゆくゆうと去ってゆく。それを走って追いかける試衛館。

おりよう
あれは誰？龍馬さんじゃないどすえ。

桂
鞍馬天狗ってやつだ。

おりよう
天狗？

桂
それよりおりよう。坂本とはこの国の話もするのか？

おりよう
会う時はいつもそんな話ばかりどす。

桂
元は過激な尊皇攘夷派だったが勝海舟ってやつに感化されて人が変わったと聞く。

おりよう
勝先生の話は良くしてくれおす。昨日のお酒も先生から頂いたんどすって。

桂
勝から？

おりよう
先生は外国とは戦わず、対等な貿易で金を稼いで、国を強くしないって言っとるんどすって。

桂
幕府の者とは思えん発言だ。

おりよう 一度負けないといろいろ認めはらへんでしょ殿方は。コテンパンにやられてもらって「外国には敵わん」って。負けを認めれば、扉が開きおす。

桂 扉？

おりよう

開国どす。先に負けを認めた長州と薩摩が力を合わせて、幕府や朝廷はんを説得して、国を開いたら外国はんをよく話し合って、みんなが得になるようなお付き合いをすればいいんどす。

桂 ふん。子どもに聞かせるおとき話だ。まず憎み合ってる長州と薩摩が力を合わせるってところから無理だ。それに何百年もいい思いをしてきた幕府が周りの言うことなんか聞きっこない。会津や桑名もようやく立てた檜舞台から下りはせんだろう。

おりよう なんて夜の女の世迷い言どす。そうなればいいなってだけの話どすええ。攘夷の先駆けの薩摩と長州が真反対にひっくり返るか。うーむ。

桂 試衛館が息を切らして戻ってくる。

取り逃がした。

山南 なんて素早いやつだ。

齋藤 おりよう。もう一回願って坂本を呼び戻せ。

土方 あれは龍馬さんじゃありません。

おりよう

試衛館 誰だ。

近藤 天狗？

おりよう 天狗だ。

桂 天狗じゃと？

永倉 じゃああいつなににきたの？危ないな。いきなり刀振り回して。

沖田 試衛館が揃ってたつた一人を倒せなかったのか？

桂 ああ。しくじった。

土方 なんかうまく体が動かんかったな。

山南 今日力は入らん。

桂 女になったから？

試衛館 はあ？

桂 弱くなったんじゃねえかお前達？

土方 なんだと？

沖田 桂さん。それは我らに言っではいかん言葉だ。

と、刀に手をやる

桂 やめろよ。縛られてるんだぞ。でも昔相対したときの沖田と、なんか違うよ
うな。

沖田 弱くなったって？

桂 いや。

沖田 もう一度勝負だ。

桂 だから叶わねえって。

近藤
体が女になったから弱くなるってのは、我ら試衛館には当たらんだろう。我らの剣は気合の剣。我らの剣は気迫の剣。勝てると思うから勝てる。刃よりもさらに気を研ぎ澄ます。まず心から相手を切る。それが天然理心流だ。

試衛館
おう！

近藤
気合を入れろ！

試衛館一同、剣を抜き

試衛館
気合だ！

おりよう
たくましいでありますね。

土方
おりよう！お前は一刻も早く龍馬をここに呼び出せ！

おりよう
はい。

近藤
はあつ！

音楽に合わせて刀を振る稽古をする試衛館。おりようは舞いながら坂

本龍馬を呼ぼうとする。

おりよう

♪あ〜ん 龍馬さ〜ん 会いたいどすえ〜 いや〜ん 龍馬さ〜ん 来てくれやんし〜 (繰り返し)

水戸派が見回りで斬った浪人の羽織と刀を戦利品として持って出てくる。

芹沢
過激浪人を3人斬ったぞ！近藤くんたちも早く手柄をたてんと。

新見
この隊の主導権はまもなく我ら水戸が握ることになるう。

近藤
われらも見廻りにゆくぞ！

試衛館
おう！

と鼻息荒くはけてゆく。芹沢たち、おりようの様子を不思議そうに見たり桂と話したりしていると、近藤たちが戦利品の刀5本を自慢気に持って帰ってくる。

芹沢たちも「俺達も行くぞ！」と出てゆく。

しばらくして芹沢たち、戦利品の耳6人分を見せびらかしながら出てくる。

近藤たちが出てゆく。しばらくして戦利品の雑刀や長槍を持って出てくる。

芹沢たち出てゆく。しばらくして拳銃と革のブーツを戦利品として持ってきて桂の前に置く。

桂
ちよつと待て！これ！（銃とブーツ）

おりよう
ああつ！

と、銃とブーツを奪うように持って

おりよう
う、う、うえーん！（泣く）

芹沢
どうした？

近藤
おりようさん？

おりよう
おーいおいおい……

桂
短銃と西洋の履物。

土方 それがどうした。
新見 結構手こずったぞ。銃なんか出しやがって。
平山 俺としたことが足をやられた。
 あんたは大体やられるな。
 北辰一刀流だったな。
 剣が折れて構えた短銃が不発だったすきに何とか仕留めた。
 （ブーツの匂いを嗅いで）臭い！この匂い確かに。龍馬さん！
 えっ？
 おいおいおい……
 これはまずいことになったぞ。これからの国に必要なやつだった。
 国よりも！おい！
 そうだ！毒消しは！
 あつ！
 おい！他になにか持ってなかったか？
 いや。別に。なあ。
 ああ。
 そんなもん持ち歩かねえか。
 っていうことは、なに？
 俺達どうなるんだ？
 これは、とてもまずいぞ。
 ああ……
 おいおいおいおい……

暗転

二場

「幕末語り2」

弁士が出てくる

弁士 なんと坂本龍馬が死んでしまいました。これは大変なことになりましたね。歴史では坂本龍馬はこれよりしばらく後に近江屋にて暗殺されるのですがね。かつては新選組もその暗殺者の中にいたと言われておりましたが今はそれはなかったとされています。また芹沢鴨一派は悪党で、日本史の中でも有名な嫌われ者ですが、永倉新八による新選組顛末記には「世が世なら芹澤は戦国武将の器」と評価されています。さてこの幕末。いま現在とても似ていると言われています。事象を上げれば巨大地震の多発、コレラやハシカの大流行、外国では戦争が頻繁に起こり、その波はこの島組にも及びました。そして革新的な技術や文化に思想が現れて古いものを終わらせていきます。なかなか興味深いと思いませんかこの幕末を見つめる事は、現在から未来への生き方の手がかりを見つけることにもなるかもしれません。さあ物語に戻

りましょう。龍馬が殺されたことを知った。おりようはどうするのか。そして壬生浪士組の人々は？第二部をお楽しみください。

弁士はける

三場―「日暮れ」

夕方。悲しむおりようを芹沢、新見、平山、沖田、桂が囲んでいる。齋藤がおりようの隣に座り、慰めている。

しーくしーくしーく……

おりよう
そう泣かんでくれ。

新見
あれは坂本龍馬だったのか。

平山
どうりで腕が立つわけだ。

沖田
千葉道場では師範代だったんでしょう？

新見
それでおりようさんは坂本の（小指を立てて）コレだったわけか。

桂
ああ。うーむ……

桂、考え込む。

芹沢
悪かったな。仕事とはいえそなたの大切な人を殺めてしまった。

おりよう
しーくしーくしーく……

新見
あんたにとつては大事な人だったんだらう。

おりよううなずく

平山
そうか。坂本はきつとおりようさんの心が好きだったんだらう。

新見
さぞかし内面が美しいのだな。あの坂本龍馬の目をくらませるほど。

平山
ナントカの深情けというが。

齋藤
やめろ。

おりよう
覚悟はしてたであります。

齋藤
おりようさん。

おりよう
龍馬さんはこのところとても目立つ活動をしていたから。誤解されれば尊皇派と幕府派の両方から怒りを買うような。でも龍馬さんはどんな相手でも必ず話せば分かるって。国を思うのは一緒だからって。

新見
しかしそれぞれの意地や立場が先に立っているからな。例えば親友同士でも立場によつては殺し合わねばならない。

おりよう
はい。私も武家の娘。男の方のさだめはようわかつとります。女は大事な人の死を受け入れて、悲しみとともにいつまでも……あー！むかつくどす！え？

一同
よくもあてのいい人をやっつくれましたな！

芹沢
どうした？

おりよう
……はっ！……私としたことが……すまんどす……しくしく……

沖田
そうだよな。女はなんでこんなとき我慢しなきゃいけないんだらう？そして男はどうして殺し合いに臨むんだ？

平山
死にがいのある生き方をする。それが男つてもんだらう？

沖田 死んであの世に行けば残されたものことなんか知らんぷり？
平山 そんなことはない。家族のことはいつも思っている。たとえ死んでもな。

と、懐からお守りを出して

平山 母ちゃん：（目頭を押さえる）

沖田 僕だつて持つてる（お守りを出して）。でも故郷を捨てた自分を納得させる、いやごまかすためにこれを持っているのかもしれない。

新見 人はいずれ死ぬものだろう？

沖田 自ら死に向かわなくてもいいんじゃないかな。死なない生き方、争わない生き方を選ぶことは出来ないのかな？

平山 それは腰抜けのセリフだな。

沖田 どうして？

平山 意気地なしだろう？

沖田 意気地って何？勇気ってなんだろう？死を恐れないのが勇気？なんか違うな。

芹沢 沖田くんどうした？

沖田 うーんとえーと、おかしいな。なんで急にこんなことを思っちゃったんだろう？

芹沢

こんな話を聞いたことないか？ある無人の島に10人の人間が流された。9人が男で1人が女だった。翌年島の人口は11人になった。ある島には男が1人、女が9人流された。翌年島の人口は19人になった。ちよつと待って下さい。双子がいた場合はどうなるんです！

平山

それよりも病気や飢えて死んでしまったら？

新見

例え話だ。つまり男はひと処に群れていても意味がないのだ。だから外に出る。外に出れば男同士、ぶつかってはどちらが強い局面になる。女は一度

嫁げば死ぬまで村の連中と顔を合わせて生きることとなる。だれとでも仲良くあることは生きることと同じになる。

平山

長男は村に残るな。

新見

外に出るのは俺ら次男や三男ばかりだな。

芹沢

だから例え話と言っておる。どうした沖田くん。戦いではまっさきに刀を抜く君らしくない。

平間が出てくる

平間

いやー驚いた！

芹沢

おお。どうだ。

平間

まあ、見てくださいよ。おい。

女性の着物を着た山南と永倉が出てくる。

平山

芹沢一派は「おお！」と歓声を上げ、沖田、齋藤は驚きの声を上げる。

山南

これはこれは。山南……ちゃん。

山南

やめろ。

おりよう

まあ！いいじゃない。

新見

なんだよ。本当の女みたいじゃないか。

芹沢 わしが頼んだんだ。
山南 仕方なくだ。
沖田 恥ずかしくないの？
永倉 恥ずかしいのう。
芹澤 思ったとおり。どこからどう見てもおなごだ。
桂 でも中身は男だろう？
新見 複雑な気分だ。
平山 俺は複雑を超えていける。
齋藤 着付けや化粧は平間さんが？
平間 おう。
新見 お前は何でも器用にやる。
山南 で、われらがおなごっぽくなっておる間にしか出来ない仕事とは？
芹沢 密偵だ。
新見、平山 なるほど！
桂 これはまずいぞ！
沖田 なに？
桂 忍び働き、つまりくノ一だ。
山南 くノ一？
永倉 わしが？
新見 我々がこの隊服を着て取り締まりをするようになってから過激浪士たちが目立たなくなっただろう。
齋藤 あれは地下に潜るようになったんだ。
沖田 モグラみたいに？
沖田くん。
新見 町民や百姓なんかに化けて見分けがつかん。
平山 卑怯な奴らめ。
芹澤 暗号かなんかで示し合わせてどこかに集まっては良からぬことを企んでおる。
桂 ばれていたか。
芹澤 さて話が一段落すると酒だとなる。
桂 絶対そうなる。
芹澤 そして男ばかりではつまらぬと置屋から女を呼ぶ。
桂 はあっ！
山南 山南さんたちにそれをさせるってのか？
芹澤 いまや日の本は戦国時代といってもよからう。より多く情報を持っているものが勝る。
山南 そういうことか。なるほど。
沖田 いいの？
永倉 仕方ないのう。

芹澤 すまん。納得してくれたならとても助かる。どうだろう。今日はみんなよく働いた。日も落ちるし、たまにはここで一杯やらぬか。

沖田 寺の境内で？花見でもないのに。

芹澤 花はほら。（山南と永倉を指して）ここに。

永倉 たわけ！気色が悪い。

平山 いやいや大事な任務につくんだ。稽古が必要ですよ。そんな格好で男っぽくてもいかなでしよう？

おりよう 女らしい所作は教えてあげる。面白いわ。

山南 おう。どうすればいい。

おりよう まず基本はお菱が歪まないように立つ。こう。

永倉 お菱とは何じゃ。

芹澤 よし！酒だ。

平間 裏の八木さんと前川さんのところから調達してきます。

新見 おう手伝うぞ。

平間 ちなみに山南さん。歌もいけるんですよ。

山南 やめろ。

平山 ほう。

山南 こんな女声では粹な歌はうなれん。

平山 新見と平間はける。

山南 山南ちゃん。お願い。

山南 山南、ため息を付いてから歌う

♪梅は咲いたか 桜はまだかいなく

桂 こりやあみんな騙されるぞ。（遠くへ叫ぶ）おおい！壬生のくノ一に気をつ

けろ！

齋藤 黙れ！

楽器の音が聞こえる。平間と新見が酒や料理の乗ったお盆を持って出

てきて、その後ろからアコーディオン弾きとギター弾きの楽団が出てく

る。

平間 おまたせ！

芹澤 おお来たか。なんじゃその者ら。

新見 お囃子の連中が歩いてたので連れてきました。

沖田 珍しい楽器だね。

新見 手風琴と西洋琴というらしい。

平山 面白い。

芹澤 近藤と土方が深刻な様子で現れる。

近藤 おお！いいところに帰ってきた。近藤くん、土方くん。

近藤 ……ああ。

芹澤 どうした？何かあったか？

土方 いや。

新見 さあさあ。駆けつけ一杯。

と、酒の入った椀を二人に渡す。近藤と土方、やけ気味に一氣に飲みほす。

いいぞ！

土方さんあまり飲めないのに。

ふう。

ようし宴だ！

楽隊の演奏で「幕末音頭」を歌い踊る一同。近藤と土方もやけになつて騒ぐ。桂は縛られたまま踊りに加わる。

一同

♪花も嵐か江戸の世も 咲いちや散つての呉呉に

黒船 地震に 流行り病 こうなりややけくそ ええじゃないか

ここで立たねば男じゃない 攘夷 開国 切つた張つたなんじやもんじや

意地の張り合い こじらせ合い 最後にや喧嘩じや わつしよい！

あつけらかんといきましよう でつかい祭りじや踊らにや損損

男に生まれりや 命がけ ついでに仲間と酒があればいい

水戸派

♪人生楽ありや苦もあるさ 水戸で鳴らした 腕つぶし

浪士募集に奮い立ち 一旗揚げよう 天狗党

おりよう、

山南、永倉 ♪立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は百合の花

舞えばてふてふ 歌えばひばり みなが振り向く京美人

桂

♪西へ東へ 国越えて 誰とも話そう 世の中を

されど壬生にて囚われて 何を憂えど籠の鳥

試衛館

♪喧嘩殺法 向こう傷 からつと暴れて江戸の意気

異国のあやかしかけられて 女姿が悩ましや

芹沢

さあもつといこう！

一同

♪あつけらかんといきましよう でつかい祭りじや踊らにや損損

男にうまれりや 命がけ ついでに仲間と酒があればいい

歌い終わり、一同、上機嫌で輪になって座る。近藤と土方は輪に入れずにいる。

ようし飲むぞ！

酒の肴もほら。八木さんのところで奮発してくれたぞ！

近藤くん。なにしてるんだ。こっちに来なさい。

土方さんも。こっち。

局長同士語らおうではないか。

山南さん、永倉さん。殿方にお酒を。

山南、永倉

おう。

新見

やあ楽しいな。

平山

酒がうまい。

沖田

あんたたちさ、面倒くさいけど。

新見、平山

平間 うん？

沖田

悪いやつではない。

新見 だろうか？
大きな志を掲げた我ら仲間にはちんけなやつなど一人もおらん。なあ近藤くん。

近藤 ああ……

平山 山南ちゃん。酒だ。

山南 (怒って) はあ？

おりよう だめよ。優しく。

新見 あ、あの永倉さん。

永倉 うむ。心して飲むのじゃぞ。

新見 ありがとうございます。

桂 俺にも。

おりよう 私が。

桂 えー……

沖田 近藤さん。あれやってくださいよ。拳を口に入れて出して入れて出して。

一同 笑う。酒宴が大いに盛り上がる中、近藤と土方は輪を離れて沈んだ様子。齋藤がそれに気づいて。

近藤さん、土方さん。何かありました？

近藤 ああ……

水戸派と山南と永倉、外で飲み直そうと言い合いながら賑やかに退場する。沖田が近藤たちのところに来て。

沖田 どうしたの？ 芹澤さんが角屋で飲み直そうって。

近藤 俺達はいいよ。

沖田 何だよ辛気臭いな。せつかく盛り上がってるのに。

山南 永倉と山南が戻ってくる。永倉は桂を捕まえている。

山南 女の格好をしておるんだった。

永倉 どさくさで逃げようとしやがって。

桂 逃げねえって。逃げるんだったらとつくに。

おりよう 俺も？

平間 えー。いいやおまへんか。

桂 いや、もうそろそろ着替えたほうがいい。ヒゲも伸びてるし。

山南 平間とおりようはける。

土方 みんなに話がある。

桂 話？

桂 俺も？

土方 あんたは……まあ、聞いてくれてもいい。

桂 おう。

齋藤 昼に二人は黒谷に行かれていましたね。

近藤 ああ。京都守護職の本陣だ。

沖田 会津の？ じゃあいい話？

山南 隊に入りたいというものがまた来たか？

土方 松平容保公から直々のお達しを受けた。
齋藤 殿様直々？

沖田 やっぱいいことだ。ふたりとも照れてそんな顔してるの？

近藤 新撰組を正式に名乗つての活動をせよと。

沖田、山南、永倉、桂 おお！

ついに。

土方 組分けを書面にし、局中法度と共に呈して晴れて解禁だ。

沖田 良かったね。芹沢さんたちにも教えてあげればよかったのに。

土方 局長は近藤さん一人。

桂 それ、どうということだ？

近藤 芹沢鴨ら水戸の一派を……

土方 始末せよと言われた。

沖田、山南、永倉、齋藤、桂 え？

近藤 芹沢さんの強引なやり方が会津には邪魔と受け取られた。

沖田 どういうこと？僕たちだって同じように働いているのに。

土方 商人たちから金の押し借り、大坂力士との喧嘩。

山南 押し借りはあえて借りて期限までに返す、新見くんの発案だ。

齋藤 大坂力士との喧嘩は我らも一緒。

土方 角屋での泥酔騒動。

沖田 確かに悪酔いした時は暴れて手がつけられない時もあるけどそんなもの。

近藤 大和屋に火をつけて全焼させた。

永倉 あれはやりすぎかもしれないが。

沖田 大和屋は役人に賄賂を贈りながら裏で尊皇派に金を渡して天誅の後押しをしてたんだ。

山南 芹沢さんがやらなきや幕府側が大勢死んだかもしれない。

土方 ああ。そうだ。全部わかってる。

近藤 松平容保公に帝より手紙が届いたそうだな。

沖田、山南、永倉、齋藤 帝？

近藤 都の今後は会津を頼ると書かれていたらしい。

土方 殿はいたく喜んでいてな。

桂 そりゃあそうだろうな。けっ。

近藤 それで、会津、桑名、一橋で新しく都をまとめるのに、壬生浪士組の派手な働きは民の反感を買う恐れがあるというのだ。

土方 しかし京都を守護する者をなくすことはできない。

齋藤 つまり新撰組と名を改めるのを機に悪い評判ごと捨ててしまえと？

土方 そうということだ。

永倉 なんということじゃ。

沖田 で？近藤さん、土方さんは？もちろん断ったよね？それで芹沢さんも一緒に詰め所に連れて行ってさ、もうやりませんって謝れば。

桂 そんな子供のわるさみたいに行くかよ。

沖田 断ったんでしよう？

近藤、土方

……

沖田 嘘！さつき芹沢さんたち仲間って言うてくれたばかりなのに。意地を張りあつたり小さな喧嘩はするけど、冬にここに来てから一緒に頑張つて盛り上げようとしてきたでしょ。

山南 新見くんの知恵がなければ局中法度も作れなかった。

沖田 近藤さん！

桂 他になにかあるな。徳川に直接召し抱えられるとか？

齋藤 馬鹿なことを言うな。

永倉 田舎の道場出が幕府直参になんてあるわけない。

近藤 ……そうだ。

永倉 誠か？

沖田 で、だからなに？そんなことで芹沢さんたちを斬ると言ったの？まさかね。

土方 総司。新選組は幕府に必要とされたのだぞ。

沖田 でも。

土方 近藤さんは旗本どころか大名にもなれるかもしれないのだ。

沖田 でも。

土方 江戸で集められた三百人の浪士組の中で我々だけが認められ、都の守護を徳

川幕府から直接任されようとしておるのだ。すごいと思わんか？

沖田 いやいや。そんなものと引き換えに仲間の命を奪う？

土方 そんなものだ？

沖田 近藤さんってそんな人だったの？

土方 大変な出世だぞ。

沖田 近藤さん！

土方 我らの夢だ！雲の上にあつたような夢だ。それがこの荒れた世のおかげで江戸の百姓が奇跡のように力を買われたのだ。一年前まで惨めな侍もどきだった我らが真の武士になれるのだ。それどころかよもや大名だ。何千万の民を抱える一国の主だぞ。近藤さんが殿様になるかもしれないのだぞ。

沖田 仲間を裏切つて殿様。それが男のすること？

土方 男は出世することではか自分を証明できんだらう？

沖田 そうかな？

土方 総司。お前は誰よりも強くなりたいと剣を磨いてきたんじゃないか。山南さ

沖田 んも永倉も斉藤も。

沖田 それはそうだけど。

土方 世に出たい。自らの腕で誰よりも抜きん出たい。誰よりも優れていたい。我ら全員がそう思っているはずだ。

沖田 僕はおかしいのかな。他人を蹴落として得られるものに今はまるで魅力を感じない。

土方 おかしい！総司はおかしくなりました。

近藤 俺もだ。俺もおかしくなりました。

近藤さん。

なんかよくわからなくなつてな。確かに大きな志を持つて俺は都にやつてきた。そしてたつた半年で幕府直参の話。驚いて心が動くのは当然……

……なんだろうが、どうしたことかこの心が動かんのだ。

芹沢は斬れんか。

割り切らねばならん。

ちがう。なあ。俺達は誰と戦うのだ？

そうだよ。芹沢さんたちじゃないよね。

外国じゃな。

都で暴れる尊王攘夷派。

我々も尊王攘夷じゃないか。帝と協力をして外国人を追い払う。

敵は幕府を倒してそれに成り代わろうと目論んでいる。

ほら。もうおかしくなった。敵とは誰だ。

だから長州や土佐の過激派だ。

弱腰の幕府に外敵は任せておれんというのが桂。お前ら長州の言い草だな。

そういう考えの者も多い。

なんでこの窮地に日の本の中で揉めてしまったのだ。

徳川が偉そうにしておるのがいかん。いつまでも外様と馬鹿にしやがつて。

混乱の隙に天下をかすめ取ろうとする長州が油断ならんからだろうが。

薩摩をはじめ、幕府に協力的な藩のおかげでちよつと事態が良くなると、身内

内で固まって他の藩をはじきだそうとする。狡くてせこい態度に憤る者は増

えておる。

薩摩は幕府の中に入って主導権を握ろうとしたな。

幕府の中は目立つと命を狙われるって小心者ばかりだ。結果そう見えてしま

まったんだ。

なんだかくだらない。

だから俺たちは誰と戦うのだ？

広く見れば徳川の侍として毛利や島津と戦っているということか。それはそ

れで誇らしい。

大昔の戦国の世に後戻りしておる？

ずつと進んだ外国が攻めてきてるのに、こっちは大昔に戻ってるの？

全部の藩が力を合わせて外国と戦うなんてやれるもんか。

外国は本当に攻めてきたのか？

当たり前だろう？黒船の大砲を向けて、開国せよと。

交渉じゃないのか？

脅してきたんだぞ。武器で。

こっちだつてこんなでっかい刃物を腰に下げた武士たちがいっぱい。いつで

も斬るって態度でいるよね。

相手が柄（つか）に手をかけたんだ。こっちも構えんといかんでしょう。

土方

近藤

土方

近藤

永倉

土方

近藤

沖田

永倉

斎藤

近藤

土方

近藤

土方

斎藤

桂

近藤

桂

土方

桂

永倉

桂

沖田

近藤

土方

山南

沖田

桂

近藤

土方

近藤

土方

沖田

斎藤

斎藤

斎藤

近藤 外国と戦わぬということはできんのかな？
土方 相手が武器を下ろしたら話し合いにもなるうが。
桂 それでも面子を潰されたとかで斬りかかるやつが絶対出るだろうな。
沖田 なんてそうなるんだろう？

永倉 因縁に意地に面子。人というのは難しいのう。
沖田 女つてのは人じゃないのかな？

永倉 なんじゃ？
沖田 意地とか面子つて男のものでしょうか？

土方 女だつたらみんなと仲良くできるつてか。そんなもの気持ち悪い。
沖田 なんて。

土方 男は面子をかけてぶつかり合い初めて認め合うのだ。
沖田 ずっと争つてるでしょ。

土方 まだとことんまでやっておらんのだ。
沖田 本当にくだららない。獣の争いみたいだ。

近藤 総司！
土方 民の暮らしが頭にちらつく。俺も生まれは百姓。としさんは薬を作つて売つていた。

土方 ああ。

近藤 黒船のことを初めて聞いたときは村の人たちの暮らしがどうなつてしまうのかとただ心配になつたが、勢いで都に出てきて、気づいたら大局を見て藩の意地だの外国への面子なんて話をしている。我らが鼻息を荒くしておるこの間、百姓や女子供はどんな思いをしておるのだろう。

沖田 戦がなくなつてほしいつて思つてるだろうね。
山南 安心な暮らしがしたいだろう。

永倉 飢えることなく、なにに怯えることなく。
近藤 ここのところなにかと幼い頃の景色が思い返されてな。生まれた家の庭には桜の木があつて、花の頃になると縁側に座つて木を見上げるのが好きだつた。花と青空の色合いが本当にきれいで、いつまでも見ていたかつた。暖かく、まるで時が止まつたように穏やかで、遠くで牛の鳴く声、かすかに川のせせらぎ。幼い俺は全てに安心をして花と空を眺めておれた。

山南 なんだか腹が減つてきたな。
土方 なんだ。

山南 そんな景色に見とれていると何処かからいい匂いがしてくるのだ。
永倉 ああ芋を煮る匂いじゃ。

沖田 僕はふきを炊いた匂いだな。
山南 夕餉（ゆうげ）まであと何刻（なんどき）か気になりだす。
斎藤 でも気づいたら寝ちまつてるんだ。

桂 おう。目を覚ますと空が赤くなりかけていて焦るんだろう？
山南 今日は何もしなかつたつて。家を出てただ夕空の中を走つたり。
近藤 向こうに鋏を抱えた父ちゃんが帰つてくるのが見える。

永倉 父ちゃんが帰ってくるだけでなんであんなに嬉しかったのか。
父ちゃんの着物はいい匂いだつたな。

土方 家族が家に揃ってようやく丸く全てが満たされた気持ちになる。

近藤 誰だつてそれぞれ形は違えど、幸せな思い出を持っているよね。僕はそれを
守るためなら頑張れるな。でも守るには戦わなければいけないのか？

沖田 外国と戦争をせず協力しあうというわけにはいかんかな。

近藤 なんだそれ。

土方 無理にわかり合わなくてもいい。手を組まなくてもいい。互いの我をぶつけ

近藤 合うのではなく、協力をするのだ。向こうが進んだ国だとしても、相手の得
になるものを日の本はきつと持っている。

山南 できるかな。

近藤 まずはやってみないか？

沖田 藩同士も戦わず協力？

近藤 ああ。とても困難でこの命がある間にできるかわからんが。

沖田 じゃあ芹沢さんとも？

近藤 うむ。

沖田 良かった。

土方 しかし、うーむ……

近藤 なんかはつきりしてきたぞ。これから行いに迷ったらあの空の美しさを思い
出せばいいんだ。ふるさとの小さな空を。

桂 井の中の蛙、大海を知らず。

山南 なんだ？

桂 中国の荘子の言葉だ。男はひと所にとどまっておらず大局を見ろというもの
だが。

近藤 されど空の深さを知る。

桂 ああ……ふーん。大局を見るものはふるさとの空の深さを忘れるか。

土方 空は……深いか？

桂 あんたと同じようなことを言ったやつがおった。

近藤 だれだ。

桂 おりようだ。

試衛館 おりようさん？

桂 男では思いつきもせんことを女は言いやがる。

土方 女だと。

桂 悪いことじゃないと思うぜ。こんな乱世にこそ二つを併せ持った感覚を持
つてのは。

おりようが男の着物にブーツを履き、拳銃を持って出てくる。

おりよう ほら！

一同 あ。

おりよう どうこれ似合う？

斎藤 その格好は。

おりよう どう？これ。
まるで男だ。

山南 その短銃はそんなに振り回してはいけないよ。
齋藤 剣の時代は終わりぜよ。

おりよう 本場に危ないから。

近藤 もう！どうって聞いているの。この格好。
ああ。まあ、そっちのほうがいいかな。

おりよう そう？

土方 前の格好より見やすいな。

山南 うん。目に痛くない。

おりよう 龍馬さんみたい？

沖田 会ったことないし。

桂 俺はちらつと見たことがあるがとても似ている気がする。

おりよう 本当！良かった。このブーツというやつもピッタリなの。嬉しいわ。

桂 そうか！そういうことか！

試衛館、おりよう え？

桂 おりよう。お前はこれから坂本龍馬だ。

おりよう どういうこと。

桂 そういうことだろうか？

土手に鞍馬天狗が現れる。

沖田 また出た。

鞍馬天狗、桂の縄を斬り、覆面をとる。

試衛館

平間！

平間 桂さん。坂本は日の本からまだいなくなつてはなりません。

桂 なるほど。

近藤 どういうことだ。

桂 問者として壬生に入ってもらっていたんだ。

齋藤 あんた水戸者だろう？

平間 忍びだ。

桂 忍びは何にでもなれるんだよ。

山南 人を化けさせるのも得意なんだな。

桂 龍馬。お前はこの日の本をどうしたい。

おりよう えー。よくわからないわ。あ、でも龍馬さんは日の本をもう一度立て直した

桂 と言ってよく言つてた。私はそれじゃあ工夫がないから洗濯したいにすれば？
桂 と言つたらそんな女みたいなのが言えるかって。

桂 日の本をきれいに洗濯するか。

おりよう ええ。

近藤 古い染みをきれいに洗つてしんぜよう。

山南 いいな。

桂 お陰で俺もやるのが見えてきた気がするぞ。坂本。

おりよう 坂本つて呼ばれて嬉しい。

桂 龍馬。

おりよう あーん。

土方 気持ち悪いんじゃない！

芹沢たちが上手より戻ってくる。平間、顔を隠してはける。

沖田 あ。芹沢さん。

近藤 もう帰ってきたのか。

芹沢 ああ。

沖田 そんなに飲んでないんじゃない？僕一緒に飲みたい気分だな。

芹沢 近藤くん。

近藤 ああ。

芹沢 黒谷で新選組について話があったんだってな。

土方 どうしてそれを。

芹沢 角屋で会津の役人が漏らしていた。

近藤 あ、ああ。そうだ。

新見 山南くん、俺たち頑張った甲斐があったな。

平山 土方。腕が鳴るな。新選組はこれからもっと出世する。

近藤 そのことで話があるんだが。

芹沢 いや。今日はもう疲れた。話は明日にしよう。さあ張り切らねばな。新選

組！

新見、平山 おう！

芹沢 わははは……

芹沢達はける

試衛館、桂、おりよう、目を見合わせる。

暗転。

四場

朝の鳥の鳴き声。

明かりがつくと沖田が出てくる。

沖田、伸びをして木刀を持つと素振りを始める。

土方が出てくる。土方も木刀を持ち素振りを始める。

斎藤が出てきて同じく木刀で素振りをする。三人の動きが合う。

近藤、山南、永倉が出てくる。

どうだ。

また体が変わってきたかな。

力がみなぎらん。

思った動きをしようとするやとすぐに息が切れる。

このまま本物の女になってしまふのかな。

女ではやっていけないだろう。こんな世の中じゃ。

近藤
試衛館

もつと稽古だ。
おう！

と木刀を振って稽古をする。

桂が神妙な面持ちで出てきて奥の台の中央に正座する。

芹沢、新見、平山、平間が白いたすき掛けに白鉢巻をつけた姿で現れる。

近藤
芹沢さん？

沖田
どうしたのその格好。

土方
どこかに出稽古に行くのか。

芹沢
試衛館の諸君。

近藤
ああ。

芹沢
果し合いを申し込む。

試衛館
果し合い？

山南
なんだそれは。

芹沢
日時はたつた今。場所はここ壬生寺。いざ正々堂々とお相手願おう。

桂
俺が立会人を請け負った。書状だ。

近藤、桂から芹沢の果たし状を受け取り、試衛館一同でそれを見て

近藤
ちよつと待ってくれ。なんでこんなことを。

芹沢
黒谷、会津の本陣で我ら水戸組を斬れと言われたんだらう。

近藤
それは……

新見
我らが良かれと思つてやったことが裏目と取られたか。

平山
おかげで名が売れたのにな。

土方
話を聞いてくれ。我らそれについて話し合つてな。

芹沢
良かったな。

試衛館
え？

芹沢
ようやく認められたな。江戸の田舎で真面目に一生懸命、泥水をすすつてでも頑張つてきた甲斐があつた。

平山
俺たち水戸組だつて志を持つてやつてきたんだぞ。お前らみたいに真面目には映らなかつたかもしれんが。

新見
山南くんは頭がいいから俺が教えることはもうなくなつてしまった。少々ずるさも覚えるといいが。

平山
でも浪士組から幕府直参の武士が生まれたなんてすごいな。今や他人事だが、こんなに嬉しいことはないぞ。

芹沢
潮目が大きく変わった。これはいいことである。気持ちよく斬られてやろうじゃないか。

新見
しかし、むざむざとやられるのも面白くない。

平山
だから果たし合いだ。

沖田
芹沢さん。違うんだ。僕たち話し合つてね。芹沢さんとも争わず。もつと民のことをね。

芹澤 沖田くん！それではいかん！近藤くん！新選組は日の本中の浪士の夢となるのだ。くすぶっている若者たちの志を引き受けてやろう。

近藤 芹澤さん。それはできません。

芹澤 武士が筋を通して果たし合いを申し込んでおるのだが。

近藤 土方！どうした親分が迷ってる。こんな時はお前がしつかりせんか。女になつて意気地をなくしたか。

土方 しかし。

平間 女ではやつぱり武士は無理だ。

平山 そうか。天下に名高い試衛館はもう終わりだな。おまえらは意地も誇りもな

土方 やつてやろうじゃねえか！

平山 そうこなくっちゃ。

山南 平山……

芹澤 受けてもらおう。果たし合い。近藤！

近藤 ……わかった。

沖田 近藤さん。

近藤 やらねばならんだらう。恥はかかせれぬ。

永倉 そうじゃな。

土方 よし！

おりようが出てくる。

おりよう あれ？どうした？おまんさんらなにをしちよるんじゃ？

桂 龍馬。男同士の戦い、俺たちの目に焼き付けるぞ。

おりよう え？戦い？わ……わかったぜよ……

桂 それでは、近藤勇を始めとする試衛館対、芹沢鴨を筆頭とする水戸派の果たし合いを始める。では、双方正々堂々と。

試衛館、水戸派 おう！

平山 よーし、俺の相手は……

新見 待ってくれ、俺が行く。山南くん。

山南 おう！

平山 山南は俺が……

新見 この隊には山南くんか俺のどちらかが残らねばならん。

平山 まあ、そうか。

山南 うむ。

新見 真剣にやらせてもらう。

山南 望むところだ。

永倉 山南さん。しつかり。

桂 山南敬介対新見錦。はじめ！

緊迫の睨み合い。山南が斬りかかり、新見が受けては反撃とほぼ互角の戦いが続く中、山南は腕を切られてしまう。

土方

山南さん！

新見が再度斬ろうと刀を振りかぶったところ山南の刀が新見の腹を横に斬る。倒れ込む新見。

平山

新見！

山南、新見のとどめを刺そうとしたところで、

新美

ま、参った。

桂

勝負あり！

山南

あつ……

平山

新美さん。（山南に向かい）山南い！

新見

待て！山南くん。あとは頼んだぞ……

山南

わかった……

重症を負わせてしまった新見を見て山南は苦痛の表情。試衛館の一同も険しい顔をしている。

平山

手当を。

新見

いや。そこにもたれさせてくれ。勝負の行方を見たい。

平山

……そうか。

平山、新美の肩を担いで奥の井戸にもたれさせる。

平間

頼もう……

永倉

ではわしが！

土方

永倉しつかりやれ！

永倉

おう！

桂

永倉新八対平間重助。はじめ！

永倉、猛烈な勢いで斬りかかるが、手練の平間にその剣はことごとく弾かれ、気合で飛び込んだところ手足を一度に斬られて倒れてしまふ。追撃をせず冷静に長倉を見つめる平間。

桂

永倉やれるか？

永倉、必死で立ち上がるが、首を掴まれて投げ飛ばされてしまふ。永倉の刀を取り二刀流となった平間。

平間

まだまだだ！

齊藤

俺が行く。

近藤

斎藤気をつけろ。

斎藤

大丈夫。俺にはアレがある。

山南

平間は俺たち全員でかかってでも勝てなかった。

土方

あの時は倒す気で戦っておらん。斎藤が本気になればきつと。

齊藤

天狗野郎！かかってこい！

平山

天狗？

桂

斎藤一 対平間重助。はじめ！

変幻自在な平間の二刀流と斎藤の鋭い剣は互いに決め手を与えない一進一退の膠着状態になりかけたとき、斎藤は左片手の一本突き「牙（がとつ）」を出し、平間に勝利する。

桂 勝負あり！

齋藤、力を使い果たして膝をつく。

平山 なんだあの技は。

永倉 必殺技の「牙突」見事じゃ齋藤。

平山 牙突？

桂 やられたか……

おりよう あの人、桂さんの……

桂 しかたない。

平山 ようし！あとは俺が全員片付けてやる！

おりよう おい！おまんさんらもうやめんか！仲間同士で殺し合いなぞ。わしは悲しく

てたまらんぜよ。

桂 果たし合いつてのはどちらかの命がなくなるまでやり合うこと。男は複雑な

ものを最も単純な方法で解決しようとする。そこに情けがあろうともな。

おりよう 男つて難しいどすなあ。

沖田 そうだよ！もうやめよう。こんな僕らが求めていたものと違う。ねえ近藤

さん！芹澤さん！

芹澤 沖田！てめえいい加減にしろ！武士が勝負をしておる最中だ。貴様も早く腹

をくくらんか！

と沖田の腹を殴る。

うっ！

総司。

沖田 お腹を殴ったな……子どもの頃から親に言われてきた！女の腹は殴ってはいか

んと。

芹澤 お前は女か。

沖田 わかんない！でも！ゆるせない！

芹澤 その意気だ！

平山 土方！かかってこんかい！俺の本気を見せてやる。

いざ！

近藤 としさん。しっかり！

芹澤 平山やれい！

平山 おう！

土方 土方歳三対平山五郎。はじめ！

芹澤は正座をして黙想に入る。

土方と平山、初手の激しい撃ち合いのあと鏢迫り合いになる。

すげえ……俺、あの土方歳三とやり合ってるよ……有名人と命のやりとりをして

る……興奮するぞ。ガキに戻ったみたいだ！

もっと楽しませろ！

と振った刀が平山の尻を横に斬る。

あっ！

桂 おい。平山やれるか？

平山 あたりまえだ！俺は怪我に慣れてんだ。土方！独眼竜平山五郎、いまこそ見せる必殺技！

斎藤 あいつにも必殺技が？

平山、妙な構えをする。

平山 ……があつたら、いいなあ。

土方 ふざけんな！

土方の激しい攻撃をギリギリでしのぐ平山、

平山 さすが土方。喧嘩殺法とはよく言った。俺もお前に習つて泥臭く行くぜ。

と斬られた尻の血を土方の目に投げる。土方は目をくらまされるが平山を掴んで殴り合いに持ち込む。両者のなりふり構わない闘いはまるでプロレスの様。殴って、投げて、頭突きをしてドロップキックとヘトヘトに疲れて、ようやく刀を手にする両者。

平山 いまだ！肘！肩！

と土方の肘と肩を斬る。一瞬喜んで隙ができた平山を土方が袈裟斬りにする。

平山 しまったー！いかん。思いつきり斬られた！こりやあ死ぬぞ！……

やあやあ！我は平山五郎！斬られて本望。試衛館！いや新選組！都を…頼んだぞ……

と土方に刀を渡して倒れる。

山南、近藤、永倉 平山！

桂 勝負あり！

桂 芹澤さん。

芹澤 おう！桂、悪いなこんな大変なことに付き合わせちまつて。いや。

桂 浪士組を何人か倒したつてことで長州への手土産になるだろう。

芹澤 芹澤さんそんなことも考えてるの？

桂 近藤さん。

近藤 ああ。

沖田 ちよつと待つて。僕がやる。

桂 ここは大将同士が。

沖田 僕を倒してから近藤さんとやりなよ。

総司。

沖田 いやだ！僕がやる！

いいだろう。沖田くん。まずは君。そして近藤くん。芹澤鴨の格にちよつど合うつてもんだ。なあ新見…新見？

新見は絶命している。

芹澤 死んじまつたか。もうわし一人だ。やはり試衛館は強かった。

近藤 芹澤さん。最後までやるのか？

芹澤 見くびるな。

近藤 ……わかった。

桂 芹沢鴨 対 沖田総司。
土方 総司。思い切つて行け。

山南 沖田くん！

斎藤、永倉 頑張れ！

桂 はじめ！

芹澤 わしの剣は重くて鋭い。間合いに入るにはどうすればいい？

沖田 更に早くだ！

と素早い攻撃を見せるが跳ね返されて、首元に剣を突きつけられる。

芹澤 ぬるい！もう一度！

沖田 情けをかけるな。

芹澤 女がちびつたみたいになまくら剣なんぞ相手にしたくないのだ。さあ！本気で来い！

沖田、気合を込めて切り込む。芹澤ギリギリで受ける。

芹澤 そうだ。もつと来い！

沖田の素早く強い切り込みを受ける芹澤に焦りが見え出す。芹澤が必死に出す攻撃を沖田は軽々と避け、軽快なステップで芹澤の周りを回りだす。

芹澤 それでこそ沖田総司だ。近藤！お前に足らんものはこれだ。この鬼みたいな剣士をいざというときにちゃんと使えるか。

近藤 仲間を使うなど。

芹澤 使うんだ。親分はいざというときに仲間を道具のように使わねばならん。それだけに任せても力を全部使えんぞ。それをわかってこいつらはお前についてきておるんだ。お前も鬼になれ！

沖田 隙あり！

沖田切り込む。芹澤が避けて振った刀が偶然に沖田の足を斬る。

試衛館 あっ！

芹澤 沖田おしまいだ。仕留めたら近藤。

沖田 まだまだ！

沖田、片足を引きずりながら早い攻撃を見せる。

芹澤 お前の剣はずつとわしの芯からズレておるんだ！なめんなバカモン！

芹澤の上段の一振りを頭上で刀で受ける沖田。刀に全体重をかける芹澤。沖田が力負けしそうになったところで

近藤 総司殺せ！かまわん！お前の心も何もかも全部俺が引き取る。眼の前の敵を倒せ！

沖田、芹澤の刀を交わして素早い連続攻撃で芹澤の腕や腹を切り、三段突きが芹澤の胸を突く！

試衛館、おりよう あっ！

芹澤、崩れるように膝をつく。

土方 やった。総司！

沖田 ……あ。

芹澤 くそ。やられた。
沖田 芹澤さん。
芹澤 近づくな。近藤。次はお前だ。
近藤 え？
芹澤 ……と、いいたいところだがもう無理だろう。最後は武士らしく腹を切らせてくれ。
芹澤、目が見えない様子で落とした自分の刀を手で探る。
土方が刀を拾い芹澤に持たせる。

芹澤 桂！

桂 ああ。

芹澤 坂本！

おりよう え、ええ。

芹澤 この国をなんとかしてしろ。

桂とおりよう、うなずく。

芹澤 近藤。

近藤 ああ。

芹澤 介錯だ。お前がとどめをさせ。

近藤 ……承った。

芹澤、奥を向いて切腹をする。近藤の刀が落ちる。

真つ先に泣き出す沖田。山南も新見や平山を見て泣き出す。永倉も、

斎藤も。必死に涙をこらえている堪えている土方に。

近藤 としさん。泣いてもいいんだよ。

土方も堰を切ったように泣く。近藤も泣く。女のように泣き続ける試

衛館の一同。その悲しみを受け止める桂とおりよう。

暗転。

エピソード

朝の明かり、鳥の声。桂とおりようが風呂敷や笠に棒を持った旅支度で出てくる。

おりよう 私にできるのかな。

桂 できるかどうかじゃねえ。やるんだよ。

おりよう でもお…

桂 まずはその話し方をなんとかしろ。男らしく。

おりよう わかったぜよ。

桂 その調子だ。

おりよう しかし芹澤さんも買いかぶり過ぎぜよ。龍馬さんとは冗談みたいに国のことを話してたけど。

桂 俺が思うに坂本は多分にお前に影響を受けていたんじゃないかな。そうどすか？ぜよ。

おりよう

桂　　そしてもうひとり坂本に影響を与えた者、例の妙な酒を坂本に渡したつてやつだ。

おりよう　勝海舟先生ね。

桂　　長らく幕府海軍のてつぺんをつとめているくせに外国とは戦わず開国を進めようとする変人だ。なんとしてでも会って話さねばならん。

おりよう　でも龍馬さんと会った人に私が龍馬などとは言えないでしょ。

桂　　お前が会う理由になるんだよ。「お前のせいでこんなことになっちまった。何を企んでる！」つてね。

おりよう　わしは二代目坂本龍馬ぜよ！

桂　　そう。そして俺は言つてやるのさ。「お前も二代目じゃねえのか？」つてな。

おりよう　いや〜ん怖いく。

桂　　だからそれやめろ！

近藤がでてくる。その後ろから包帯をしたり足を引きずったりと満身創痕の試衛館一同が出てくる。

近藤　桂。行くのか？

桂　　ああ。勝海舟に会いに行く。

近藤　おりようさんも一緒に？

おりよう　遠くまで歩けるかしら。

桂　　だから。

おりよう　わかった！わしは昨日のわしならず！嫌々でも歩くぜよ！

桂　　嫌々？

土方　　都にはいつ戻る？

桂　　そんなことおつかねえ新選組に言えるかよ。

山南　　そりやそうだ。

桂　　（小声で）池田屋つてところでたまに飲んでるが、お前ら絶対来るなよ。

斎藤　　それ飲みに来いと誘つてるのか？

桂　　違うよ。

おりよう　私は？

桂　　お前は戻つたら寺田屋で龍馬然としてろ。たまに変装して遊びに行つてやる。くノ一連れてな。

おりよう　もうなかなか会えなくなるのね。寂しいでありんす。

近藤　　我らは本来ひと所におつてはならんのだ。

桂　　しかし志に掲げる夢は同じ。しがらみなく会える時もこよう。

山南　　その道のりで迷つたときは。

土方　　空の深さを見つめるか。

一同　　ああ。

沖田　　いつかみんなで堂々と宴会しようね。壬生寺の境内がいいな。

桂　　そうしよう。

おりよう　それがいいぜよ。

桂 じゃあ行くか。
おりよう 新選組。もう女みたいにめそめそするな。
土方 龍馬もな。
おりよう 俺たち、乱世だからできる仕事をするぜよ。
試衛館 ああ。
桂 さらば！
おりよう おう！

桂とおりよう出ていく。

土方 泣いてなんておれるか。
近藤 うむ。これからが正念場だ。
試衛館 ああ。
近藤 でもな。
沖田 うん。
近藤 最後にさ。
試衛館 うん。
近藤 泣いておかんか。
齋藤 ……いや。
山南 泣くのはもう。
試衛館 うん。
近藤 さあ。こんな世の中、我らこそ…真ん中を突き進まん。
試衛館 おう。

音楽。試衛館一同、覚悟を決めるように空を見つめる。

「されど空の深さを知る」

試衛館 ♪青空に志を 唇に友の名を 死ぬ時まで肩を連ね 歩みは止めぬと
誓いを語ったときのくすぐったい嬉しさよ
我々ならきつと誰より 熱く生きられる
されどこんな日に目に映った空 これまでで一番悲しい
されどこんな日に見上げてる空の下で君は僕よりも
明るく

命をさらけ出して生き方をぶつけ合い
傷を追う日々の中で輝きに出会う
心のうちを言葉にするほど軽くなく
語らぬこそひとつである「我ら」を感じる
されどこんな日に目に映った空 これまでで一番切ない
されどこんな日に見上げてる空の下で君は誰よりも
明るく

されどこんな日に目に映った空　これまでで一番悲しい
されどこんな日に見上げてる空の下で君は僕よりも
明るくあつてほしい　生きてほしい
今は　空の深さを知ってる

音楽が盛り上がり、新撰組の姿がシルエットとなり、暗転。

おしまい